
僕らだけのキス

きよんの家

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕らだけのキス

【Nコード】

N6580B

【作者名】

きよんの家

【あらすじ】

まあラブストーリーです。どこにでもいる男と、どこにでもいる女の話です。そんなありそうで、なそうで、よくある気がする話です。どこにでもいる、カップルの、どこにでもある話です。ですが、そこには二人しか分からない感動やドラマがあります。そんな感動的なものを表現出来たらいいなあ

プロローグ 「何気ない始まり、平凡の終わり」 (前書き)

誰もが知っている本当のドラマをあなたに

ブローグ 「何気ない始まり、平凡の終わり」

「なんでこんなに夏は暑いんだ？」

扇風機の音にもかき消されるような小さな声で僕は呟いた。

誰かに聞かせたいわけでもない。ましてや、暑さの理由を本当に知りたいとも思っていない。ただ何もすることもなく、うなだれている自分になにかしらの行動を与えたかったただだけだ。

窓が一つだけあつて、日当たり最高で、夏は蒸し風呂、冬は寂しい、そんな散らかった四畳半に住んでいる。

「なぜ人は冬になれば夏を待ち、夏になれば冬を待つ？」

都合がいいよな。いつまでも無い物ばかりねだってる。

「しょうもな」

吐き捨てるように言ってみるものの、やはり扇風機にかき消される僕の声。

別に誰かに聞かせたって喜ぶような言葉でもない。

でも、独り言はやっぱ寂しいもんだ。

物が散らかつてるからまだ寂しさを紛らわすことができるけど、それも寂しいわな、

「ちよつと悲しくなってきた。。。」「

またまた出ちゃった独り言。

その声だけはかき消されずに自分に響いた気がした。

そんな風は無駄に凹んでいると、散らかった四畳半の部屋のベットのの上に転がってるケータイが「早く出る！」と言うかのように

けたたましく鳴りやがった。

充分すぎる程にセミの声も聞いている。そして、自分の声も聞いている。

これ以上、俺になにをきかせたいんだ？ケータイさんよお。

まあいい。まあいい。出てやろうじゃないか。

嫌々、ケータイさんを手に取って誰が俺と話したいのか確認した。しかし、ケータイさんのディスプレイには

「公衆電話」

あれ？そんな友達いたっけなあ？昔の幼馴染かなあ？でもあいつは、香臭伝羽だしなあー

芸人になりたいわけじゃない。

まあいいか。出てやるか。「公衆電話さんからの電話」に。

プロローグ 「何気ない始まり、平凡の終わり」 (後書き)

まあ分かる人にはわかるし分からない人には分からないでしょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6580b/>

僕らだけのキス

2010年12月14日20時06分発行